

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密又は防護上の観点から  
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-1084 改3
提出年月日	平成30年9月19日

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 工事計画審査資料

その他発電用原子炉の附属施設のうち

非常用電源設備

(本文)

## その他発電用原子炉の附属施設

### 1 非常用電源設備

#### 1 常用電源設備との切換方法

##### 1.1 非常用ディーゼル発電装置

###### a. 非常用ディーゼル発電機

##### 1.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

###### a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

##### 1.3 常設代替高圧電源装置

###### a. 常設代替高圧電源装置

##### 1.4 緊急時対策所用発電機

###### a. 緊急時対策所用発電機

##### 1.5 可搬型代替低圧電源車

###### a. 可搬型代替低圧電源車

##### 1.6 窒素供給装置用電源車

###### a. 窒素供給装置用電源車

### 2 非常用発電装置

#### 2.1 非常用ディーゼル発電装置

##### (2) 内燃機関

###### イ 機関並びに過給機

###### ・常設

###### a. 非常用ディーゼル発電機内燃機関

###### ロ 調速装置及び非常調速装置

###### a. 非常用ディーゼル発電機調速装置

###### b. 非常用ディーゼル発電機非常調速装置

###### ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

###### ・常設

###### a. 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ

###### ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備

###### 1 空気だめ

###### ・常設

###### a. 非常用ディーゼル発電機空気だめ

###### 2 空気だめの安全弁

###### ・常設

###### ホ 燃料デイトンク又はサービスタンク

- ・常設
  - a. 非常用ディーゼル発電機燃料油デイトンク
- (4) 燃料設備
  - イ ポンプ
    - ・常設
      - a. 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
  - ロ 容器
    - ・常設
      - a. 軽油貯蔵タンク
  - ニ 主配管
    - ・常設
- (5) 発電機
  - イ 発電機
    - ・常設
      - a. 非常用ディーゼル発電機
  - ロ 励磁装置
    - ・常設
      - a. 非常用ディーゼル発電機励磁装置
  - ハ 保護継電装置
    - a. 非常用ディーゼル発電機保護継電装置
  - ニ 原動機との連結方法
    - (直結)
- (6) 冷却設備
  - ロ ポンプ
    - ・常設
      - a. 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ
  - ハ ろ過装置
    - ・常設
      - a. 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ
  - ホ 主配管
    - ・常設

## 2.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

- (2) 内燃機関
  - イ 機関並びに過給機
    - ・常設

- a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関
- ロ 調速装置及び非常調速装置
  - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機調速装置
  - b. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機非常調速装置
- ハ 内燃機関に附属する冷却水設備
  - ・常設
    - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機冷却水ポンプ
- ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備
  - 1 空気だめ
    - ・常設
      - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ
  - 2 空気だめの安全弁
    - ・常設
- ホ 燃料デイタンク又はサービスタンク
  - ・常設
    - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイタンク
- (4) 燃料設備
  - イ ポンプ
    - ・常設
      - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
  - ロ 容器
    - ・常設
      - a. 軽油貯蔵タンク
  - ニ 主配管
    - ・常設
- (5) 発電機
  - イ 発電機
    - ・常設
      - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機
  - ロ 励磁装置
    - ・常設
      - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置
  - ハ 保護継電装置
    - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機保護継電装置
  - ニ 原動機との連結方法
    - (直結)

(6) 冷却設備

ロ ポンプ

・常設

a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ

ハ ろ過装置

・常設

a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ

ホ 主配管

・常設

2.3 常設代替高圧電源装置

(2) 内燃機関

イ 機関並びに過給機

・常設

a. 常設代替高圧電源装置内燃機関

ロ 調速装置及び非常調速装置

a. 常設代替高圧電源装置調速装置

b. 常設代替高圧電源装置非常調速装置

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

・常設

a. 常設代替高圧電源装置冷却水ポンプ

ホ 燃料デイタンク又はサービスタンク

・常設

a. 常設代替高圧電源装置燃料油サービスタンク

(4) 燃料設備

イ ポンプ

・常設

a. 常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプ

ロ 容器

・常設

a. 軽油貯蔵タンク

ニ 主配管

・常設

(5) 発電機

イ 発電機

・常設

- a. 常設代替高圧電源装置
- ロ 励磁装置
  - ・常設
    - a. 常設代替高圧電源装置励磁装置
- ハ 保護継電装置
  - a. 常設代替高圧電源装置保護継電装置
- ニ 原動機との連結方法  
(直結)

## 2.4 緊急時対策所用発電機

### (2) 内燃機関

- イ 機関並びに過給機
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機内燃機関（東海，東海第二発電所共用）
- ロ 調速装置及び非常調速装置
  - a. 緊急時対策所用発電機調速装置（東海，東海第二発電所共用）
  - b. 緊急時対策所用発電機非常調速装置（東海，東海第二発電所共用）
- ハ 内燃機関に附属する冷却水設備
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ（東海，東海第二発電所共用）
- ホ 燃料デイトンク又はサービスタンク
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク（東海，東海第二発電所共用）

### (4) 燃料設備

- イ ポンプ
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機給油ポンプ（東海，東海第二発電所共用）
- ロ 容器
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク（東海，東海第二発電所共用）

### ニ 主配管

- ・常設

### (5) 発電機

- イ 発電機
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機（東海，東海第二発電所共用）

- ロ 励磁装置
  - ・常設
    - a. 緊急時対策所用発電機励磁装置（東海，東海第二発電所共用）
- ハ 保護継電装置
  - a. 緊急時対策所用発電機保護継電装置（東海，東海第二発電所共用）
- ニ 原動機との連結方法
  - （直結）

## 2.5 可搬型代替低圧電源車

### (2) 内燃機関

- イ 機関並びに過給機
  - ・可搬型
    - a. 可搬型代替低圧電源車内燃機関
- ロ 調速装置及び非常調速装置
  - a. 可搬型代替低圧電源車調速装置
  - b. 可搬型代替低圧電源車非常調速装置
- ハ 内燃機関に附属する冷却水設備
  - ・可搬型
    - a. 可搬型代替低圧電源車冷却水ポンプ
- ホ 燃料デイタンク又はサービスタンク
  - ・可搬型
    - a. 可搬型代替低圧電源車燃料タンク

### (4) 燃料設備

- ロ 容器
  - ・常設
    - a. 可搬型設備用軽油タンク
  - ・可搬型
    - a. タンクローリ

### ニ 主配管

- ・可搬型

### (5) 発電機

- イ 発電機
  - ・可搬型
    - a. 可搬型代替低圧電源車
- ロ 励磁装置
  - ・可搬型

- a. 可搬型代替低圧電源車励磁装置
- ハ 保護継電装置
  - a. 可搬型代替低圧電源車保護継電装置
- ニ 原動機との連結方法
  - (直結)

## 2.6 窒素供給装置用電源車

### (2) 内燃機関

#### イ 機関並びに過給機

- ・可搬型
  - a. 窒素供給装置用電源車内燃機関
- ロ 調速装置及び非常調速装置
  - a. 窒素供給装置用電源車調速装置
  - b. 窒素供給装置用電源車非常調速装置

#### ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

- ・可搬型
  - a. 窒素供給装置用電源車冷却水ポンプ

#### ホ 燃料デイトンク又はサービスタンク

- ・可搬型
  - a. 窒素供給装置用電源車燃料タンク

### (4) 燃料設備

#### ロ 容器

- ・常設
  - a. 可搬型設備用軽油タンク
- ・可搬型
  - a. タンクローリ

#### ニ 主配管

- ・可搬型

### (5) 発電機

#### イ 発電機

- ・可搬型
  - a. 窒素供給装置用電源車

#### ロ 励磁装置

- ・可搬型
  - a. 窒素供給装置用電源車励磁装置

#### ハ 保護継電装置



a. 窒素供給装置用電源車保護継電装置

ニ 原動機との連結方法

(直結)

3 その他の電源装置

3.1 その他の電源装置

(1) 無停電電源装置

・常設

a. 非常用無停電電源装置

b. 緊急用無停電電源装置

・可搬型

a. 可搬型整流器

(2) 電力貯蔵装置

・常設

a. 125V系蓄電池

b. 中性子モニタ用蓄電池

c. 緊急用125V系蓄電池

d. 緊急時対策所用125V系蓄電池（東海，東海第二発電所共用）

・可搬型

a. 逃がし安全弁用可搬型蓄電池

その他発電用原子炉の附属施設

1 非常用電源設備

1 常用電源設備との切換方法

1.1 非常用ディーゼル発電装置

非常用ディーゼル発電機

変 更 前	変 更 後
手動および自動	変更なし

1.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

変 更 前	変 更 後
手動および自動	変更なし

1.3 常設代替高圧電源装置

常設代替高圧電源装置

変 更 前	変 更 後
—	手動

1.4 緊急時対策所用発電機

緊急時対策所用発電機

変 更 前	変 更 後
—	手動および自動

1.5 可搬型代替低圧電源車

可搬型代替低圧電源車

変 更 前	変 更 後
—	手動

1.6 窒素供給装置用電源車

窒素供給装置用電源車

変 更 前	変 更 後
—	—

2 非常用発電装置に係る次の事項

2.1 非常用ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後				
名称			非常用ディーゼル発電機 内燃機関*1		変更なし				
機 関	種類	—	ディーゼル機関*2						
	出力	kW/個	5500*3, *4						
	回転速度*5	min <sup>-1</sup> *6	429						
	燃料	種類	—	軽油*8					
		使用量	L/h/個	1440.4*8					
	個数	—	2						
	取 付 箇 所	系統名 (ライン名)	—	2C 非常用ディーゼル発電機内燃機関 2C 非常用ディーゼル発電装置*8			2D 非常用ディーゼル発電機内燃機関 2D 非常用ディーゼル発電装置*8		
		設置床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*8			原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*8		
		溢水防護上の 区画番号	—	—			CS-B1-5	CS-B1-3	
		溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—	—		EL. 0.70 m 以上	EL. 0.70 m 以上		
過 給 機	種類	—	排気タービン式		変更なし				
	出口の圧力	kPa	123*3 (最大連続回転時)						
	回転速度*5	min <sup>-1</sup> *6	16250 (最大連続回転数)						
	個数	—	4 (機関1個当たり2) *7						
	取付箇所	—	機関と同じ*8						

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 サイクル型  ディーゼル機関」と記載。

\*3：S I 単位に換算したもの。

- \*4 : ディーゼル機関の出力を示す。
- \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。
- \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「r. p. m」と記載。
- \*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (各 2)」と記載。
- \*8 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変 更 前		変 更 後
		非常用ディーゼル 発電機調速装置	非常用ディーゼル 発電機非常調速装置	変更なし
名	称			
種	類	油圧式	電気-空気式	

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所  
(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前		変更後	
名称			非常用ディーゼル発電機 冷却水ポンプ*1		変更なし	
ポンプ 取付 箇所	種類	—	うず巻形*2			
	容量	m <sup>3</sup> /h/個				
	個数	—	2			
	系統名 (ライン名)	—	2C 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ 2C 非常用ディーゼル発電装置*4	2D 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ 2D 非常用ディーゼル発電装置*4		
	設置床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*4	原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*4		
	溢水防護上の区画番号	—	—			
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	EL. 0.70 m 以上			EL. 0.70 m 以上	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

\*3：公称値を示す。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1 空気だめの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変 更 前				変 更 後	
名 称			非常用ディーゼル発電機空気だめ A		非常用ディーゼル発電機空気だめ B*1		変更なし	
種 類	—		横置円筒形*2					
容 量	m <sup>3</sup> /個*3		3 以上*5 (3*4, *6)					
最 高 使 用 圧 力	MPa		3.24*7					
最 高 使 用 温 度	℃		60*8					
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1200*6, *8					
	胴 板 厚 さ*9	mm	□ (22*6)					
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (22*6)					
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*6, *8 (鏡板長径)					
			300*6, *8 (鏡板短径の2分の1)					
	マンホール外径	mm	424*6, *10, *11, 324*6, *10, *12					
	マンホール厚さ	mm	□ (22*6, *8)					
	マンホール平板厚さ	mm	□ (36*6, *8)					
全 長	mm	2904*6, *10						
材 料	胴 板	—	SM50B					
	鏡 板	—	SM50B*8					
	マンホール平板	—	SM50B*8					
個 数	—	2*13		2*13				
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	2C 非常用ディーゼル 発電機空気だめ A 2C 非常用ディーゼル発電装置*5	2D 非常用ディーゼル 発電機空気だめ A 2D 非常用ディーゼル発電装置*5	2C 非常用ディーゼル 発電機空気だめ B 2C 非常用ディーゼル発電装置*5	2D 非常用ディーゼル 発電機空気だめ B 2D 非常用ディーゼル発電装置*5		
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*5	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*5	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*5	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*5		
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	溢水防護上の区画番号	—						
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—					

- 注記 \*1: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。  
 \*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横形定置式」と記載。  
 \*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0」と記載。  
 \*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。  
 \*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。  
 \*6: 公称値を示す。

\*7：S I 単位に換算したもの。

\*8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-17 内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号で届け出た工事計画の添付図面「第 10-3 図 空気だめ本体図（1 / 2）（非常用ディーゼル発電装置用）」による。

\*11：マンホール管台外径における長径を示す。

\*12：マンホール管台外径における短径を示す。

\*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4（各 2）」と記載。



2 空気だめの安全弁の名称, 種類, 吹出圧力, 吹出量, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

		変 更 前				変 更 後
名 称		3-14Z1*1	3-14Z2*1, *2	3-14Z101*1	3-14Z102*1, *2	変更なし
種 類	—	非平衡型*3				
吹 出 圧 力	MPa	3.24*4				
吹 出 量	kg/h	[ ]				
主 呼 び 径	—	20 A				
要 寸 法	リ フ ト	[ ]				
	の ど 部 の 径	[ ]				
	弁 座 口 の 径	[ ]				
材 料	弁 箱	[ ]				
個 数	—	1*5	1*5	1*5	1*5	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	3-14Z1 2D非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z2 2D非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z101 2C非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z102 2C非常用ディーゼル発電装置*7	
	設 置 床	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*7	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*7	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*7	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*7	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—				
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—				

注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

\*2: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。

\*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

\*4: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-18 内燃機関に附属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

\*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (空気だめ 1 個につき 1 個)」と記載。

\*6: 公称値を示す。

\*7: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前*1	変更後
名 称			非常用ディーゼル 発電機燃料油 デイトンク	変更なし
種 類	—	横置円筒形		
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (14*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃	55		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1800*2	
	胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 (鏡板中央部内半径)	
			180*2 (鏡板隅の丸み半径)	
	管台外径(燃料入口)	mm	48.6*2	
	管台厚さ(燃料入口)	mm	<input type="text"/> (3.7*2)	
	管台外径(燃料出口)	mm	60.5*2	
	管台厚さ(燃料出口)	mm	<input type="text"/> (3.9*2)	
	マンホール外径	mm	518*2	
	マンホール厚さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	マンホール平板厚さ	mm	<input type="text"/> (12*2)	
	全 長	mm	6210*2	
材 料	胴 板	—	SS41 相当	
	鏡 板	—	SS41	
	マンホール平板	—	SS41 相当	
個 数	—	2		

(続き)

			変 更 前*1		変 更 後	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機 燃料油デイ タンク 2C 非常用 ディーゼル 発電装置	2D 非常用 ディーゼル 発電機 燃料油デイ タンク 2D 非常用 ディーゼル 発電装置	変更なし	
	設 置 床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 4.05 m	原子炉建屋 付属棟 EL. 4.65 m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		CS-R-2	CS-R-2
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			EL. 9.40 m 以上	EL. 9.40 m 以上

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*2：公称値を示す。

(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前	変更後		
名 称				非常用ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ		
ポ ン プ	種 類	—		スクリー式		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個		2.0 以上 (2.0*1)		
	吐 出 圧 力	MPa		□以上 (0.25*1)	□以上 (0.25*1)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa		1.0		
	最 高 使 用 温 度	℃		55		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		40*1	
			mm		32*1	
		た て	mm		220*1	
			mm		470*1	
		高 さ	mm		230*1	
	材 料	ケ ー シ ン グ	—		S25C	
	個 数	—			2	
	取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		2C 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	2D 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
					2C 非常用ディーゼル発電装置	2D 非常用ディーゼル発電装置
設 置 床		—		常設代替高压電源装置置場 EL. 2.00 m	常設代替高压電源装置置場 EL. 2.00 m	
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—		HP-B1-6	HP-B1-10	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 2.20 m 以上	EL. 2.20 m 以上	

(続き)

				変更前	変更後
原 動 機	種	類	—	—	誘導電動機
	出	力	kW/個		1.2
	個	数	—		2
	取	付	箇所		—

注記 \*1 : 公称値を示す。

ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後		
名 称				軽油貯蔵タンク*1, *2		
種 類	—			横置円筒形		
容 量	kL/個			392 以上 (400*3)		
最 高 使 用 圧 力	MPa			静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃			55		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		5000*3		
	胴 板 厚 さ	mm		<input type="text"/>	(22.0*3)	
	鏡 板 厚 さ ( 左 右 )	mm		<input type="text"/>	(22.0*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		5000*3 (鏡板中央部内半径 (左右) )		
	常 設 代 替 高 圧 電 源 装 置 用 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 外 径	mm		500*3 (鏡板隅の丸み半径 (左右) )		
	常 設 代 替 高 圧 電 源 装 置 用 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 厚 さ	mm		48.6*3		
	2D 非 常 用 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 外 径	mm		—	42.7*3	
	2D 非 常 用 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 厚 さ	mm		—	<input type="text"/> (4.9*3)	
	高 圧 炉 心 ス プ レ イ 系 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 外 径	mm		—	42.7*3	
	高 圧 炉 心 ス プ レ イ 系 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 厚 さ	mm		—	<input type="text"/> (4.9*3)	
	2C 非 常 用 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 外 径	mm		42.7*3	—	
	2C 非 常 用 デ ィ ー ゼ ル 発 電 機 燃 料 移 送 ポ ン プ 行 き 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (4.9*3)	—	
	全 長	mm			23060*3	

(続き)

			変更前	変更後	
材 料	銅	板	—	SPV490	
	鏡	板	—	SPV490	
個		数	—	2	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )		—	軽油貯蔵 タンク A 燃料油移送 ライン	軽油貯蔵 タンク B 燃料油移送 ライン
	設 置 床		—	常設代替高压 電源装置置場 EL. 2.00 m 地下埋設	常設代替高压 電源装置置場 EL. 2.00 m 地下埋設
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—	屋外	屋外
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	EL. 22.47 m 以上	EL. 22.47 m 以上

- 注記 \*1：軽油貯蔵タンクAは非常用電源設備のうち非常用発電装置（常設代替高压電源装置）の燃料設備と兼用する。
- \*2：軽油貯蔵タンクBは非常用電源設備のうち非常用発電装置（高压炉心スプレイ系ディーゼル発電装置，常設代替高压電源装置）の燃料設備と兼用する。
- \*3：公称値を示す。

ニ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 個数及び取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 <sup>*2</sup> (mm)	厚さ (mm)	材料
非常用ディーゼル発電装置	-	-	-	-	-	非常用ディーゼル発電機 軽油貯蔵タンク	1.00	55	42.7	4.9 <sup>*1</sup>	SUS304TP
						非常用ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ			48.6	5.1 <sup>*1</sup>	SUS304TP
						非常用ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ	1.00	55	42.7	4.9 <sup>*1</sup>	SUS304TP
						非常用ディーゼル発電機 燃料油デイタンク			48.6	5.1 <sup>*1</sup>	SUS304TP
						非常用ディーゼル発電機 燃料油デイタンク <sup>*2</sup>	0.20	55	60.5	3.9 <sup>*1</sup>	STPT38
						燃料油フィルタ					
燃料油フィルタ <sup>*2</sup>	0.20	55	60.5	3.9 <sup>*1</sup>	STPT38						
非常用ディーゼル発電機 内燃機関						139.8	6.6 <sup>*1</sup>	STPT38			

注記 \*1: 公称値を示す。

\*2: 本設備は既存の設備である。



(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名 称			非常用ディーゼル発電機*1	変更なし
種 類	—		横軸回転界磁三相交流発電機	
容 量	kVA/個*2		6500	
主 要 寸 法	た て	mm	4955*3, *4	
	横	mm	4200*3, *4	
	高 さ	mm	3240*3, *4	
力 率	%*5		80*6	
電 圧	V		6900	
相	—		3*7	
周 波 数	Hz		50	
回 転 速 度*8	min <sup>-1</sup> *9		429	
結 線 法	—		星形	
冷 却 方 法*10	—		空気冷却	
個 数	—		2	

(続き)

			変 更 前		変 更 後	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	2C 非常用ディーゼル発電機*3	2D 非常用ディーゼル発電機*3	変更なし	
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*3	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*3		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		CS-B1-5	CS-B1-3
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			EL. 0.70 m 以上	EL. 0.70 m 以上

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KVA」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：公称値を示す。

\*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.80」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r. p. m」と記載。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

ロ 励磁装置の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前		変更後		
名称		非常用ディーゼル発電機励磁装置*1		変更なし		
種類	—	静止形自励式				
容量	kW/個*2	60				
個数	—	2（発電機1個当たり1）*3				
取付箇所	系統名 （ライン名）	—	2C 非常用ディーゼル発電機 励磁装置 2C 非常用ディーゼル発電装置*4			2D 非常用ディーゼル発電機 励磁装置 2D 非常用ディーゼル発電装置*4
	設置床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*4	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*4		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		CS-B1-5	CS-B1-3
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—			EL. 0.70 m以上	EL. 0.70 m以上

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「励磁装置」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KW」と記載。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2」と記載。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変更後
名称		非常用ディーゼル発電機保護継電装置*1	変更なし
種類	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動遮断用*2                             <ul style="list-style-type: none"> <li>発電機逆電力継電器*3, *4</li> <li>発電機差電流継電器*3</li> <li>発電機過電流継電器*3, *4</li> </ul> </li> <li>• 警報用*2                             <ul style="list-style-type: none"> <li>発電機過電圧継電器*3</li> <li>発電機接地継電器*3</li> <li>発電機界磁接地継電器*3</li> <li>電圧不平衡継電器*3</li> </ul> </li> </ul>	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「保護継電装置の種類」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機過電圧」、「発電機逆電力」、「発電機差電流」、「発電機過電流」、「発電機接地」、「発電機界磁接地」、「電圧不平衡」と記載。

\*4：非常用炉心冷却設備作動信号発生時以外。

ニ 原動機との連結方法

		変 更 前	変更後
連 結 方 法	—	直結*	変更なし

注記 \*：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結」と記載。

(6) 冷却設備に係る次の事項

ロ ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後				
名 称			非常用ディーゼル発電機用 海水ポンプ						
ポ ン プ	種 類	—	ターボ形		変更なし				
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	272.6 以上 (272.6* <sup>1</sup> )						
	揚 程	m	□						
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70						
	最 高 使 用 温 度	℃	38						
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	187.0* <sup>1</sup>					
		吐 出 口 径	mm	250.0* <sup>1</sup>					
		コ ラ ム 外 径	mm	318.5* <sup>1</sup>					
		コ ラ ム 厚 さ	mm	□ (10.0* <sup>1</sup> )					
		高 さ	mm	8743* <sup>1</sup>					
	材 料	ケ ー シ ン グ	—	□					
	個 数	—	2						
	取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機用海 水ポンプ 2C 非常用 ディーゼル 発電装置* <sup>2</sup>			2D 非常用 ディーゼル 発電機用海 水ポンプ 2D 非常用 ディーゼル 発電装置* <sup>2</sup>		
		設 置 床	—	海水 ポンプ室 EL. 0.80 m* <sup>2</sup>			海水 ポンプ室 EL. 0.80 m* <sup>2</sup>		
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—	—		SWP-1	SWP-2			
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	—		EL. 2.09 m 以上	EL. 2.09 m 以上			

(続き)

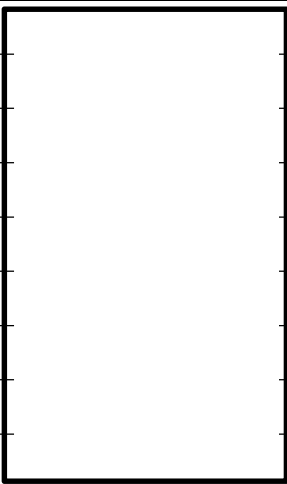
			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機	変更なし
	出 力	kW/個	55	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*2	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前		変更後
名 称			非常用ディーゼル発電機用 海水ストレーナ		変更なし
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m <sup>3</sup> /h/個	331 以上 (331*3)			
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70*4			
最 高 使 用 温 度	℃	38			
主 要 寸 法	胴 内 径	mm			
	胴 板 厚 さ	mm			
	カ バ ー 厚 さ	mm			
	管台口径 (海水入口)	mm			
	管台厚さ (海水入口)	mm			
	管台口径 (海水出口)	mm			
	管台厚さ (海水出口)	mm			
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm			
	全 長	mm			
材 料	胴*2	—	SCS14		
	ボ ン ネ ッ ト*2	—	SCS14		
	カ バ ー*2	—	SCS14		
	フ ラ ン ジ*2	—	SCS14		
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機用 海水ストレーナ 2C 非常用 ディーゼル 発電装置*5	2D 非常用 ディーゼル 発電機用 海水ストレーナ 2D 非常用 ディーゼル 発電装置*5	
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*5	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*5	
	溢水防護上の区画番号	—	—		
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—			

注記\*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。



- \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。
- \*3：公称値を示す。
- \*4：S I 単位に換算したもの。
- \*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日  
付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-2 図 非常用予備発電  
装置 内燃機関冷却系 ストレーナ構造図（その 1）（非常用ディーゼル発電機用）」に  
よる。

ホ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	
*2 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	0.70*3	38	267.4	9.3*1	STPT410*4	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし*5			
			267.4	9.3*1	STPT410*4				変更なし*5			
*2, *8, *11 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 非常用ディーゼル発電機清水冷却器  (次頁へ続く)	0.70*3	38	318.5*4	□ (13*1, *4)	STPT410*4	変更なし	変更なし	変更なし	457.2	□ (14.3*1)	SFVC2B	
			457.2	□ (14.3*1)	SGV410							
	—						変更なし	0.70*7	38*7	267.4*6 / 267.4*6	9.3*1, *6 / 9.3*1, *6	STPT410*6
	0.70*3	38	267.4	9.3*1	STPT42 STPT370*4	変更なし*5						
	—						変更なし	0.70*7	38*7	267.4*6 / 267.4*6	9.3*1, *6 / 9.3*1, *6	STPT370*6
	—									267.4*6 / 267.4*6 / 165.2*6	9.3*1, *6 / 9.3*1, *6 / 7.1*1, *6	STPT370*6
	—									267.4*6 / 165.2*6	9.3*1, *6 / 7.1*1, *6	STPT370*6
	—						変更なし		変更なし*5			
	—						0.70*7	38*7	165.2*6 / 114.3*6	7.1*1, *6 / 6.0*1, *6	STPT370*6	

(続き)

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
(前頁からの続き)	0.70*3	38	114.3	6.0*1	STPT370*4	(前頁からの続き)	変更なし		変更なし		
	0.70*3	50	114.3	6.0*1	STPT370*4		変更なし		変更なし*5		
	—						0.70*7	50*7	165.2*6 / 114.3*6	7.1*1, *6 / 6.0*1, *6	STPT370*6
	0.70*3	50	165.2	7.1*1	STPT370*4		変更なし		変更なし*5		
	—						0.70*7	50*7	216.3*6 / 165.2*6	8.2*1, *6 / 7.1*1, *6	STPT370*6
	0.70*3	50	216.3	8.2*1	STPT370*4		変更なし		変更なし*5		
	—						0.70*7	50*7	216.3*6 / 216.3*6 / 165.2*6	8.2*1, *6 / 8.2*1, *6 / 7.1*1, *6	STPT370*6
非常用ディーゼル発電装置  *11 非常用ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	0.70	50	216.3	8.2*1	STPT370*4	非常用ディーゼル発電装置  変更なし	変更なし		変更なし*5		
	—						0.70*7	50*7	267.4*6 / 216.3*6	9.3*1, *6 / 8.2*1, *6	STPT370*6
	—								267.4*6 / 267.4*6 / —	9.3*1, *6 / 9.3*1, *6 / —	STPT370*6
	0.70	50	267.4	9.3*1	STPT370*4 STPT410*4		変更なし		変更なし*5		
	0.70	66	267.4	9.3*1	STPT370*4 STPT410*4		変更なし		変更なし*5		
			267.4	9.3*1	STPT38		変更なし		変更なし		
			267.4	□ (9.3*1)	STPT410		変更なし		変更なし		
—					0.70*7	66*7	267.4*6 / 267.4*6 / —	9.3*1, *6 / 9.3*1, *6 / —	STPT410*6		
—							267.4*6 / — / 267.4*6	9.3*1, *6 / — / 9.3*1, *6	STPT410*6		

(続き)

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	
非常用ディーゼル発電装置	*2, *11 空気冷却器 分岐点 ～ 燃料弁冷却器 ～ 空気冷却器 合流点	0.70	38	114.3	6.0	STPT370*4	非常用ディーゼル発電装置	—*12				
	0.70	50	114.3	6.0	STPT370*4	変更なし						
	*11 放出配管分岐点 ～ 弁 7-13V91, 弁 7-13V89	0.70	66	267.4	□ (9.3*1)	STPT410		変更なし				
	*10, *11 弁7-13V91, 弁7-13V89 ～ 放水路	0.70	66	267.4	□ (9.3*1)	STPT410		変更なし				
	放出配管 分岐点 ～ 放水先	0.70	66	267.4	□ (9.3*1)	STPT410		変更なし	変更なし			
			—				0.70*7	66*7	267.4*6, *9	9.3*1, *6, *9	STPT410*6, *9	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ (A, B) より空気冷却器及び燃料弁冷却器まで (二重管部分を除く)」と記載。

\*3：S I 単位に換算したもの。

\*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

\*6：本設備は既存の設備である。

\*7：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナから原子炉建屋トレンチまで (非常用ディーゼル発電機および高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用とも)」と記載。

\*9：エルボを示す。

\*10：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気冷却器及び燃料弁冷却器より放水路まで (放出配管)」と記載。

\*12：当該配管については、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。

2.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名 称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 内燃機関*1	変更なし	
機 関	種 類	—	ディーゼル機関*2		
	出 力	kW/個	3050*3, *4		
	回 転 速 度*5	min <sup>-1</sup> *6	429		
	燃 料	種 類	—		軽油*7
		使 用 量	L/h/個		775.6*7
	個 数	—	1		
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 内燃機関 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7		
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*7		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		CS-B1-4
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	EL.0.70 m 以上	
過 給 機	種 類	—	排気タービン式	変更なし	
	出 口 の 圧 力	kPa	123*3 (最大連続回転時)		
	回 転 速 度*5	min <sup>-1</sup> *6	16250 (最大連続回転数)		
	個 数	—	2		
	取 付 箇 所	—	機関と同じ*7		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4サイクル堅形  ディーゼル機関」と記載。

\*3：S I単位に換算したもの。

\*4：ディーゼル機関の出力を示す。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r.p.m」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

			変 更 前		変 更 後
			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 調速装置	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 非常調速装置	変更なし
名	称	—	油圧式	電気-空気式	
種	類	—			

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所  
(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変 更 前	変 更 後
名 称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ*1	変更なし
ポ ン プ 取 付 箇 所	種 類	—	うず巻形*2	
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個		
	個 数	—	1	
	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置*4	
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*4	
溢水防護上の区画 番 号	—	—	CS-B1-4	
溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	EL. 0.70 m 以上	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

\*3：公称値を示す。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1 空気だめの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変 更 前		変 更 後
名 称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ A	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ B <sup>*1</sup>	変更なし
種 類	—	横置円筒形 <sup>*2</sup>			
容 量	m <sup>3</sup> /個 <sup>*3</sup>	3 以上 <sup>*5</sup> (3 <sup>*4</sup> , <sup>*6</sup> )			
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.24 <sup>*7</sup>			
最 高 使 用 温 度	℃	60 <sup>*8</sup>			
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1200 <sup>*6, *8</sup>		
	胴 板 厚 さ <sup>*9</sup>	mm	<input type="text"/>	(22 <sup>*6</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(22 <sup>*6</sup> )	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200 <sup>*6, *8</sup> (鏡板長径)		
			300 <sup>*6, *8</sup> (鏡板短径の2分の1)		
	マ ン ホ ール 外 径	mm	424.0 <sup>*6, *10, *11</sup> , 324.0 <sup>*6, *10, *12</sup>		
	マ ン ホ ール 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(22 <sup>*6, *8</sup> )	
	マ ン ホ ール 平 板 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(36 <sup>*6, *8</sup> )	
全 長	mm	2904 <sup>*6, *10</sup>			
材 料	胴 板	—	SM50B		
	鏡 板	—	SM50B <sup>*8</sup>		
	マ ン ホ ール 平 板	—	SM50B <sup>*8</sup>		
個 数	—	1 <sup>*13</sup>	1 <sup>*13</sup>		
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ A 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置 <sup>*5</sup>	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ B 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置 <sup>*5</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m <sup>*5</sup>	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m <sup>*5</sup>	
	溢水防護上の区画番号	—			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—		

- 注記 \*1: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。  
 \*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横形定置式」と記載。  
 \*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ℓ」と記載。  
 \*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。  
 \*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。  
 \*6: 公称値を示す。  
 \*7: S I 単位に換算したもの。



- \*8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-17 内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。
- \*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。
- \*10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出した工事計画の添付図面「第10-6図 空気だめ本体図（1／2）（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置用）」による。
- \*11：マンホール管台外径における長径を示す。
- \*12：マンホール管台外径における短径を示す。
- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2」と記載。

2 空気だめの安全弁の名称, 種類, 吹出圧力, 吹出量, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前		変更後
名称			3-14Z201*1	3-14Z202*1, *2	変更なし
種類	類	—	非平衡型*3		
吹出圧力	MPa	—	3.24*4, *5		
吹出量	kg/h	—	□		
主要寸法	呼び径	—	20 A		
	リフト	mm	□		
	のど部の径	mm	□		
	弁座口の径	mm	□		
材料	弁箱	—	SF440A*7		
個数	—	1*8	1*8		
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	3-14Z201 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7	3-14Z202 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7	
	設置床	—	原子炉建屋付属棟 EL. -4.00 m*7		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—		

注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

\*2: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。

\*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

\*4: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和51年11月27日付け建建発第112号で届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-18 内燃機関に附属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

\*5: S I 単位に換算したもの。

\*6: 公称値を示す。

\*7: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

\*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (空気だめ 1 個につき 1 個)」と記載。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前*1	変更後
名称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機燃料油 デイトンク	変更なし
種類	—		横置円筒形	
容量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> 以上 (7.5*2)	
最高使用圧力	MPa		静水頭	
最高使用温度	℃		55	
主要寸法	胴内径	mm	1800*2	
	胴板厚さ	mm	9 (9*2)	
	鏡板厚さ	mm	9 (9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 (鏡板中央部内半径)	
			180*2 (鏡板隅の丸み半径)	
	管台外径 (燃料入口)	mm	48.6*2	
	管台厚さ (燃料入口)	mm	<input type="text"/> (3.7*2)	
	管台外径 (燃料出口)	mm	60.5*2	
	管台厚さ (燃料出口)	mm	<input type="text"/> (3.9*2)	
	マンホール外径	mm	518*2	
	マンホール厚さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	マンホール平板厚さ	mm	<input type="text"/> (12*2)	
全長	mm	3560*2		
材料	胴板	—	SS41 相当	
	鏡板	—	SS41	
	マンホール平板	—	SS41 相当	
個数	—		1	

(続き)

			変更前*1	変更後
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料油デイトンク 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 4.65 m	
	溢水防護上の区画番号	—	—	CS-R-2
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 9.40 m 以上

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*2：公称値を示す。

(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前	変更後	
名 称				高圧炉心スプレイ系ディーゼル 発電機燃料移送ポンプ	
ポ ン プ	種 類	—		スクリー式	
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個		2.0 以上 (2.0*)	
	吐 出 圧 力	MPa		<input type="text"/> 以上 (0.25*)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa		1.0	
	最 高 使 用 温 度	℃		55	
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		40*
		吐 出 口 径	mm		32*
		た て	mm		220*
		横	mm		470*
		高 さ	mm		230*
	材 料	ケ ー シ ン グ	—		S25C
	個 数	—			1
	取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		高圧炉心スプレイ系ディーゼル 発電機燃料移送ポンプ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル 発電装置
		設 置 床	—		常設代替高圧電源装置置場 EL. 2.00 m
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—		HP-B1-9	
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—		EL. 2.20 m 以上	

(続き)

				変更前	変更後
原 動 機	種	類	—	—	誘導電動機
	出	力	kW/個		1.2
	個	数	—		1
	取	付	箇所		—

注記 \* : 公称値を示す。

ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，非常用電源設備のうち非常用発電装置（非常用ディーゼル発電装置）の燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

軽油貯蔵タンク B

ニ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 個数及び取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	-	-	-	-	-	高圧炉心スプレイ系 軽油貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ	1.00	55	42.7	4.9*1	SUS304TP
						48.6			5.1*1	SUS304TP	
						高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料油デイトank	1.00	55	42.7	4.9*1	SUS304TP
						48.6			5.1*1	SUS304TP	
						高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料油デイトank ～ 燃料油フィルタ	0.20	55	60.5	3.9*1	STPT38
						燃料油フィルタ ～ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 内燃機関					
			139.8	6.6*1	STPT38						

注記 \*1: 公称値を示す。

\*2: 本設備は既存の設備である。



(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名 称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機*1	変更なし
種 類	—		横軸回転界磁三相交流発電機	
容 量	kVA/個*2		3500	
主 要 寸 法	た て	mm	5065*3, *4	
	横	mm	4200*3, *4	
	高 さ	mm	3240*3, *4	
力 率	%*5		80*6	
電 圧	V		6900	
相	—		3*7	
周 波 数	Hz		50	
回 転 速 度*8	min <sup>-1</sup> *9		429	
結 線 法	—		星形	
冷 却 方 法*10	—		空気冷却	
個 数	—		1	

(続き)

			変 更 前	変 更 後
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機*3	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0. 70 m*3	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	CS-B1-4
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 0. 70 m 以上

- 注記
- \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機」と記載。
  - \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KVA」と記載。
  - \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
  - \*4：公称値を示す。
  - \*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
  - \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.80」と記載。
  - \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相」と記載。
  - \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。
  - \*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r. p. m」と記載。
  - \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

ロ 励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変 更 前		変 更 後	
名 称		高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置*1		変更なし	
種 類	—	静止形自励式			
容 量	kW/個*2	45			
個 数	—	1			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*3		
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*3		
取 付 箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		CS-B1-4
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		EL. 0.70 m 以上

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「励磁装置」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「KW」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変更後
名	称	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 保護継電装置*1	変更なし
種	類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動遮断用*2                             <ul style="list-style-type: none"> <li>発電機逆電力継電器*3, *4</li> <li>発電機差電流継電器*3</li> <li>発電機過電流継電器*3, *4</li> </ul> </li> <li>・警報用*2                             <ul style="list-style-type: none"> <li>発電機過電圧継電器*3</li> <li>発電機接地継電器*3</li> <li>発電機界磁接地継電器*3</li> <li>電圧不平衡継電器*3</li> </ul> </li> </ul>	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「保護継電装置の種類」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電機過電圧」、「発電機逆電力」、「発電機差電流」、「発電機過電流」、「発電機接地」、「発電機界磁接地」、「電圧不平衡」と記載。

\*4：非常用炉心冷却設備作動信号発生時以外。

ニ 原動機との連結方法

		変 更 前	変更後
連 結 方 法	—	直結*	変更なし

注記 \*：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結」と記載。

(6) 冷却設備に係る次の事項

ロ ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名 称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ	変更なし	
ポ ン プ	種 類	—	ターボ形		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	232.8 以上 (232.8 <sup>*1</sup> )		
	揚 程	m	<input type="text"/>		
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70		
	最 高 使 用 温 度	℃	38		
	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		187.0 <sup>*1</sup>
		吐 出 内 径	mm		250.0 <sup>*1</sup>
		コ ラ ム 外 径	mm		318.5 <sup>*1</sup>
		コ ラ ム 厚 さ	mm		<input type="text"/> (10.0 <sup>*1</sup> )
		高 さ	mm		8743 <sup>*1</sup>
材 料	ケ ー シ ン グ	—	<input type="text"/>		
個 数	—	1			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ 高圧スプレイ系 ディーゼル発電装置 <sup>*2</sup>		
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL. 0.80 m <sup>*2</sup>		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	SWP-2	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	EL. 2.09 m 以上	

(続き)

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機	変更なし
	出 力	kW/個	55	
	個 数	—	1	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ*2	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

		変更前	変更後
名 称		高圧炉心スプレイ系ディーゼル 発電機用海水ストレーナ	
種 類	—	たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /h/個	386 以上 (386*3)	
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70*4	
最 高 使 用 温 度	℃	38	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	変更なし
	胴 板 厚 さ	mm	
	カ バ ー 厚 さ	mm	
	管台口径 (海水入口)	mm	
	管台厚さ (海水入口)	mm	
	管台口径 (海水出口)	mm	
	管台厚さ (海水出口)	mm	
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	
	全 長	mm	
材 料	胴*2	—	SCS14
	ボ ン ネ ッ ト*2	—	SCS14
	カ バ ー*2	—	SCS14
	フ ラ ン ジ*2	—	SCS14
個 数	—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル 発電機用海水ストレーナ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置*5
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL.0.80 m*5
	溢水防護上の区画番号	—	—
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	

注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。

\*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。

\*3: 公称値を示す。

\*4: S I 単位に換算したもの。

\*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。



\*6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付図面「第4-3図 非常用予備発電装置 内燃機関冷却系 ストレーナ構造図(その2)(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用)」による。

ホ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	*2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	0.70*4	38	267.4	9.3*1	STPT410*5	変更なし	変更なし	変更なし*6			
									変更なし*6			
	0.70*4	38	267.4	9.3*1	STPT410*5	変更なし	変更なし*6					
			318.5*5	<input type="text" value="13"/> (13*1, *5)	STPT410*5		457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*1)	SFVC2B			
			267.4	9.3*1	STPT42		457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*1)	SGV410			
	変更なし			変更なし			変更なし					
	*2, *3, *7 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器	—	—	—	—	—	変更なし	0.70*9	38*9	267.4*8 /— /267.4*8	9.3*1, *8 /— /9.3*1, *8	STPT410*8
										267.4*8 /267.4*8 /—	9.3*1, *8 /9.3*1, *8 /—	STPT410*8
										267.4*8 /267.4*8 /165.2*8	9.3*1, *8 /9.3*1, *8 /7.1*1, *8	STPT410*8
										267.4*8 /— /165.2*8	9.3*1, *8 /— /7.1*1, *8	STPT410*8
0.70*4	38	165.2	7.1*1	STPT370*5	変更なし	変更なし*6						
				STPT38		変更なし*6						
(次頁へ続く)						(次頁へ続く)						

(続き)

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	(前頁からの続き)					高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	(前頁からの続き)					
	—						0.70*9	38*9	165.2*8 / 114.3*8	7.1*1, *8 / 6.0*1, *8	STPT370*8	
	—						変更なし					
	0.70*4	38	114.3	6.0*1	STPT370*5		変更なし					
	0.70*4	50	114.3	6.0*1	STPT370*5		変更なし		変更なし			
									変更なし*6			
	—						0.70*9	50*9	165.2*8 / 114.3*8	7.1*1, *8 / 6.0*1, *8	STPT370*8	
	—						変更なし					
	0.70*4	50	165.2	7.1*1	STPT370*5							
					変更なし*6							
—					0.70*9	50*9	216.3*8 / 165.2*8	8.2*1, *8 / 7.1*1, *8	STPT38*8			
—					変更なし							
0.70*4	50	216.3	8.2*1	STPT38							変更なし	
					変更なし*6							
—					0.70*9	50*9	216.3*8 / 216.3*8 / 165.2*8	8.2*1, *8 / 8.2*1, *8 / 7.1*1, *8	STPT370*8			

(続き)

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	0.70*4	50	216.3	8.2*1	STPT370*5	変更なし	0.70*9	50*9	変更なし*6		
					STPT410*5				変更なし		
	—								267.4*8 /— /216.3*8	9.3*1, *8 /— /8.2*1, *8	STPT410*8
	0.70	50	267.4	9.3*1	STPT410*5				変更なし*6		
	—								267.4*8 /267.4*8 /—	9.3*1, *8 /9.3*1, *8 /—	STPT410*8
	0.70	66	267.4	9.3*1 <input type="text" value="9.3*1"/>	STPT410*5 STPT410				変更なし*6		
	—								267.4*8 /— /267.4*8	9.3*1, *8 /— /9.3*1, *8	STPT410*8
*7 空気冷却器分岐点 ～ 燃料弁冷却器 ～ 空気冷却器合流点	0.70*4	38	114.3	6.0*1	STPT410*5	—*13					
		50	114.3	6.0*1	STPT410*5						
*2, *10 補機冷却器分岐点 ～ 高圧炉心スプレイ系 ポンプ室空調機, 高 圧炉心スプレイ系 ポンプポンプモータ軸 受冷却器及びメカニ カルシール冷却器 ～ 補機冷却器合流点	0.70	38	114.3	6.0*1	STPT410*5	—*13					
			STPT42								
		76.3	4.8*1	STPT410*5							
		76.3	4.8*1	STPT410*5							
		50	114.3	6.0*1	STPT42						
STPT410*5											

(続き)

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電装置	*10 放出配管分岐点 ～ 弁 7-13V90	0.70	66	267.4	<input type="text" value="9.3"/> (9.3*1)	STPT410	変更なし				
	*10, *12 弁 7-13V90 ～ 放水路	0.70	66	267.4	<input type="text" value="9.3"/> (9.3*1)	STPT410	変更なし				
	放出配管分岐点 ～ 放水先	0.70	66	267.4	<input type="text" value="9.3"/> (9.3*1)	STPT410	変更なし	変更なし			
—						0.70*9		66*9	267.4*8, *11	9.3*1, *8, *11	STPT410*8, *11

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ポンプより高圧炉心スプレィポンプ室空調器及び高圧炉心スプレィポンプモータ軸受冷却器，メカニカルシール冷却器まで（ポンプ吐出管）（二重管部分を除く）」と記載。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナから原子炉建屋トレンチまで（非常用ディーゼル発電機および高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用とも）」と記載。

\*4：S I 単位に換算したもの。

\*5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

\*6：エルボにあっては，管と同等以上の厚さのものを選定。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ吐出管より空気冷却器，燃料弁冷却器，潤滑油冷却器及び一次冷却水冷却器を経て前記配管まで」と記載。

\*8：本設備は既存の設備である。

\*9：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高圧炉心スプレィポンプ室空調器及び高圧炉心スプレィポンプモータ軸受冷却器，メカニカルシール冷却器より放水路まで（放出配管）」と記載。

\*11：エルボを示す。

\*12：本設備は記載の適正化のみを行うものであり，手続き対象外である。

\*13：当該ラインについては，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。

2.3 常設代替高圧電源装置

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後						
名 称				常設代替高圧電源装置 内燃機関						
機 関 取 付 箇 所	種 類	—		4 サイクル空冷直接噴射式 16 気筒ディーゼル機関						
	出 力	kW/個		1450						
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>		1500						
	燃 料	種 類	—		軽油					
		使 用 量	L/h/個		397			411		
	個 数	—		6（発電機 1 個当たり 1）						
	取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	—	No. 1 常設代替 高圧電源装置 内燃機関	No. 2 常設代替 高圧電源装置 内燃機関	No. 3 常設代替 高圧電源装置 内燃機関	No. 4 常設代替 高圧電源装置 内燃機関	No. 5 常設代替 高圧電源装置 内燃機関	No. 6 常設代替 高圧電源装置 内燃機関
		設 置 床	—		常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m
		溢水防護上の 区画番号	—		HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3
		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上

(続き)

			変更前	変 更 後	
過 給 機	種 類	—	—	排気ガスタービン式	
	出 口 の 圧 力	kPa		168.0	200
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>		90000	81000
	個 数	—		24 (機関 1 個当たり 4)	
	取 付 箇 所	—		機関と同じ	

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後	
名 称		—	常設代替高圧電源装置 調速装置	常設代替高圧電源装置 非常調速装置
種 類	—		電気式	電気式



ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後						
名 称			-	常設代替高压電源装置 冷却水ポンプ						
種 類	-			遠心式						
容 量	L/min/個			1650			1500			
個 数	-			6（機関1個当たり1）						
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	-		No. 1 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	No. 2 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	No. 3 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	No. 4 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	No. 5 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	No. 6 常設代替 高压電源装置 冷却水ポンプ	
	設 置 床	-		常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	
取 付 箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-		HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-		EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後
名 称			—	常設代替高圧電源装置 燃料油サービスタンク
種 類	—	角形		
容 量	L/個	890 以上 (890* <sup>1</sup> )		
最 高 使 用 圧 力 * <sup>2</sup>	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度 * <sup>2</sup>	℃	50		
主 要 寸 法	た て	mm		1050* <sup>1</sup>
	横	mm		1480* <sup>1</sup>
	高 さ	mm		640* <sup>1</sup>
材 料	胴 板	—		SS400
	底 板	—		SS400
個 数	—	6 (機関 1 個当たり 1)		

(続き)

			変更前	変 更 後					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	—	No. 1 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック	No. 2 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック	No. 3 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック	No. 4 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック	No. 5 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック	No. 6 常設代替 高压電源装置 燃料油サービ スタック
	設 置 床	—		常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：重大事故等時における使用時の値を示す。

(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前	変更後		
名 称			常設代替高压電源装置燃料移送ポンプ			
ポ ン プ	種 類	—	スクリー式			
	容 量*2	m <sup>3</sup> /h/個	3.02 以上 (3.02*1)			
	吐 出 圧 力*2	MPa	0.30 以上 (0.30*1)			
	最 高 使 用 圧 力*2	MPa	1.0			
	最 高 使 用 温 度*2	℃	55			
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	50*1		
		吐 出 口 径	mm	40*1		
		た て	mm	220*1		
		横	mm	535*1		
		高 さ	mm	250*1		
	材 料	ケ ー シ ン グ	—	S25C		
	個 数	—	2			
	取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	常設代替高压電源 装置燃料移送 ポンプ A	常設代替高压電源 装置燃料移送 ポンプ B	
		設 置 床	—	常設代替高压電源 装置置場 EL. 2.00 m	常設代替高压電源 装置置場 EL. 2.00 m	
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—	HP-B1-7	HP-B1-8		
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	EL. 2.20 m 以上	EL. 2.20 m 以上		
原 動 機	種 類	—	誘導電動機			
	出 力	kW/個	2.2			
	個 数	—	2			
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ			

注記 \*1: 公称値を示す。

\*2: 重大事故等時における使用時の値を示す。

ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，非常用電源設備のうち非常用発電装置（非常用ディーゼル発電装置）の燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（常設代替高圧電源装置）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・常設

軽油貯蔵タンク

ニ 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料
常設代替高压電源装置	—	—	—	—	—	軽油貯蔵タンク A ～ 常設代替高压電源装置 燃料移送ポンプ A	1.0*1	55*1	48.6	5.1*2	SUS304TP
									60.5	3.9*2	SUS304TP
						常設代替高压電源装置 燃料移送ポンプ A ～ 常設代替高压電源装置 燃料油サービスタンク	1.0*1	55*1	48.6	5.1*2	SUS304TP
									89.1	5.5*2	SUS304TP
									60.5	3.9*2	SUS304TP
									50 A*3	—*4	SUS304
						軽油貯蔵タンク B ～ 常設代替高压電源装置 燃料移送ポンプ B	1.0*1	55*1	48.6	5.1*2	SUS304TP
									60.5	3.9*2	SUS304TP
						常設代替高压電源装置 燃料移送ポンプ B ～ 常設代替高压電源装置燃料移送 ポンプ B 出口配管合流点	1.0*1	55*1	48.6	5.1*2	SUS304TP

注記 \*1：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*2：公称値を示す。

\*3：メーカーにて規定する呼び径を示す。

\*4：メーカー仕様によるものとし，「発電用火力設備に関する技術基準を定める省令」に基づき，規定の圧力まで昇圧した後，適切な時間保持したとき，これに耐え，また規定の圧力で点検を行ったとき，漏えいがないものを使用する。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後	
名 称			—	常設代替高圧電源装置	
種 類	—			防滴保護，空気冷却自己自由通風型三相交流発電機	
容 量	kVA/個			1725	
主 要 寸 法	た て	mm		2453 <sup>*1</sup>	1965 <sup>*1</sup>
	横	mm		1753 <sup>*1</sup>	1090 <sup>*1</sup>
	高 さ	mm		1572 <sup>*1</sup>	1000 <sup>*1</sup>
力 率	%			80（遅れ）	
電 圧	V			6600	
相	—			3	
周 波 数	Hz			50	
回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500	
結 線 法	—			星形	
冷 却 方 法	—			空気冷却	
個 数	—			5（予備1） <sup>*2</sup>	

(続き)

			変更前	変 更 後					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	—	No. 1 常設代替 高圧電源装置	No. 2 常設代替 高圧電源装置	No. 3 常設代替 高圧電源装置	No. 4 常設代替 高圧電源装置	No. 5 常設代替 高圧電源装置	No. 6 常設代替 高圧電源装置
	設 置 床	—		常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高圧 電源装置置場 EL. 11.00 m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：6個すべて重大事故等対処設備として使用するが、5個で重大事故等時の対応に必要な容量を満足しているため5（予備1）とする。



ロ 励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後					
名 称			-	常設代替高压電源装置励磁装置					
種 類				ブラシレス方式 (PMG 付)					
容 量				1040			172.2		
個 数				6 (発電機 1 個当たり 1)					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	-		No. 1 常設代替 高压電源装置 励磁装置	No. 2 常設代替 高压電源装置 励磁装置	No. 3 常設代替 高压電源装置 励磁装置	No. 4 常設代替 高压電源装置 励磁装置	No. 5 常設代替 高压電源装置 励磁装置	No. 6 常設代替 高压電源装置 励磁装置
	設 置 床	-	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	常設代替高压 電源装置置場 EL. 11.00 m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	EL. 11.80 m 以上	

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後
名 称		—	常設代替高圧電源装置保護継電装置
種 類	—		不足電圧継電器 過電圧継電器 過電流継電器

ニ 原動機との連結方法

		変更前	変更後
連 結 方 法	—	—	直結

2.4 緊急時対策所用発電機

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後	
名 称			—	緊急時対策所用発電機内燃機関（東海，東海第二発電所共用）	
種 類	—	4 サイクル空冷直接噴射式 16 気筒ディーゼル機関			
出 力	kW/個	1450			
回 転 速 度	min <sup>-1</sup>	1500			
燃 料	種 類	軽油			
	使 用 量	L/h/個		<input type="text"/>	
個 数	—	2			
機 関 取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—		緊急時対策所用発電機内燃機関 2A 緊急時対策所用発電機 2A	緊急時対策所用発電機内燃機関 2B 緊急時対策所用発電機 2B
	設 置 床	—		緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m	緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		EM-1-7	EM-1-9
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	EL. 23. 30 m 以上	EL. 23. 30 m 以上	

(続き)

			変更前	変 更 後
過 給 機	種 類	—	—	排気ガスタービン式
	出 口 の 圧 力	kPa		141.2
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>		72000
	個 数	—		8 (機関 1 個当たり 4)
	取 付 箇 所	—		機関と同じ

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後	
名 称		—	緊急時対策所用発電機 調速装置（東海，東海第二 発電所共用）	緊急時対策所用発電機 非常調速装置（東海，東海 第二発電所共用）
種 類	—		電気式	電気式

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後		
名 称			—	緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ（東海，東海第二発電所共用）		
種 類	—			遠心式		
容 量	L/min/個			1650		
個 数	—			2（機関1個当たり1）		
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ 2A 緊急時対策所用発電機 2A	緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ 2B 緊急時対策所用発電機 2B	
	設 置 床	—		緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m	緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		EM-1-7	EM-1-9	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 23. 30 m 以上	EL. 23. 30 m 以上	

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名称			—	緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク (東海，東海第二発電所共用)	
種類	—	たて置円筒形			
容量 <sup>*1</sup>	L/個	650 以上 (650 <sup>*2</sup> )			
最高使用圧力 <sup>*1</sup>	MPa	静水頭			
最高使用温度 <sup>*1</sup>	℃	45			
主要寸法	胴内径	mm		960 <sup>*2</sup>	
	胴板厚さ	mm		□ (6.0 <sup>*2</sup> )	
	平板厚さ	mm		□ (9.0 <sup>*2</sup> )	
	屋根板厚さ	mm		□ (6.0 <sup>*2</sup> )	
	入口管台外径	mm		48.6 <sup>*2</sup>	
	入口管台厚さ	mm		□ (3.7 <sup>*2</sup> )	
	出口管台外径	mm		27.2 <sup>*2</sup>	
	出口管台厚さ	mm		□ (2.9 <sup>*2</sup> )	
	高さ	mm		1140 <sup>*2</sup>	
材料	胴板	—		SM400B	
	平板	—		SM400B	
	屋根板	—		SM400B	
個数	—	2			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—		緊急時対策所用 発電機燃料油 サービスタンク 2A 緊急時対策所用 発電機 2A	緊急時対策所用 発電機燃料油 サービスタンク 2B 緊急時対策所用 発電機 2B
	設置床	—		緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m	緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m
	溢水防護上の 区画番号	—	屋外	屋外	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	EL. 23.10 m 以上	EL. 23.10 m 以上	

注記 \*1：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*2：公称値を示す。



(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後		
名 称			—	緊急時対策所用発電機給油ポンプ (東海，東海第二発電所共用)		
種 類	—			歯車式		
容 量 <sup>*1</sup>	m <sup>3</sup> /h/個			1.3 以上 (1.3 <sup>*2</sup> )		
吐 出 圧 力 <sup>*1</sup>	MPa			0.3 以上 (0.3 <sup>*2</sup> )		
最 高 使 用 圧 力 <sup>*1</sup>	MPa			0.5		
最 高 使 用 温 度 <sup>*1</sup>	℃			45		
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		40 <sup>*2</sup>		
	吐 出 内 径	mm		40 <sup>*2</sup>		
	た て	mm		208 <sup>*2</sup>		
	横	mm		330 <sup>*2</sup>		
	高 さ	mm		123 <sup>*2</sup>		
材 料 ( ケ ー シ ン グ )				—		SCS13A
個 数				—		2
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		緊急時対策所用 発電機給油ポンプ 2A 緊急時対策所用 発電機 2A	緊急時対策所用 発電機給油ポンプ 2B 緊急時対策所用 発電機 2B	
	設 置 床	—		緊急時対策所建屋 EL. 19.30 m	緊急時対策所建屋 EL. 19.30 m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		EM-1-3	EM-1-4	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 19.38 m 以上	EL. 19.38 m 以上	
原 動 機	種 類	—		誘導電動機		
	出 力	kW/個		1.5		
	個 数	—		2		
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ			

注記 \*1：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*2：公称値を示す。

ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名 称			—	緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク (東海，東海第二発電所共用)	
種 類	—			横置円筒形	
容 量 <sup>*1</sup>	kL/個			75 以上 (75 <sup>*2</sup> )	
最 高 使 用 圧 力 <sup>*1</sup>	MPa			静水頭	
最 高 使 用 温 度 <sup>*1</sup>	℃			40	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		3800 <sup>*2</sup>	
	胴 板 厚 さ	mm		□ (20.0 <sup>*2</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm		□ (20.0 <sup>*2</sup> )	
	鏡板の形状に係る寸法	mm		3800 <sup>*2</sup> (鏡板中央部内半径)	
	燃料油取出口管台外径	mm		380 <sup>*2</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	燃料油取出口管台厚さ	mm		60.5 <sup>*2</sup>	
	全 長	mm		□ (3.9 <sup>*2</sup> )	
材 料	胴 板	—		SM400B	
	鏡 板	—		SM400B	
個 数	—			2	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	緊急時対策所用 発電機燃料油 貯蔵タンク 2A 緊急時対策所用 発電機 2A	緊急時対策所用 発電機燃料油 貯蔵タンク 2B 緊急時対策所用 発電機 2B	
	設 置 床	—	緊急時対策所建屋 EL. 約 23 m 地下埋設	緊急時対策所建屋 EL. 約 23 m 地下埋設	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	屋外	屋外	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	EL. 23.10 m 以上	EL. 23.10 m 以上	

注記 \*1：重大事故等時における使用時の値を示す。

\*2：公称値を示す。

ニ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料 (常設及び可搬型の別に記載し, 可搬型の場合は, 個数及び取付箇所を付記すること。)

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
緊急時対策所用発電機	—	—	—	—	—	緊急時対策所用発電機 燃料油貯蔵タンク 2A ～ 緊急時対策所用発電機 給油ポンプ 2A (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	60.5	3.9*1	STPT370
							0.5*2		60.5	3.9*1	
									48.6	3.7*1	
						緊急時対策所用発電機 給油ポンプ 2A ～ 緊急時対策所用発電機 燃料油サービスタンク 2A (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	48.6	3.7*1	STPT370
							0.5*2				
						緊急時対策所用発電機 燃料油サービスタンク 2A ～ 緊急時対策所用発電機 内燃機関 2A (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	27.2	2.9*1	STPT370

(続き)

変更前						変更後										
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料					
緊急時対策所用発電機						緊急時対策所用発電機 燃料油貯蔵タンク 2B ～ 緊急時対策所用発電機 給油ポンプ 2B (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	60.5	3.9*1	STPT370					
							0.5*2		60.5	3.9*1						
									48.6	3.7*1						
						緊急時対策所用発電機					緊急時対策所用発電機 給油ポンプ 2B ～ 緊急時対策所用発電機 燃料油サービスタンク 2B (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	48.6	3.7*1	STPT370
												0.5*2				
											緊急時対策所用発電機 燃料油サービスタンク 2B ～ 緊急時対策所用発電機 内燃機関 2B (東海, 東海第二発電所共用)	静水頭*2	45*2	27.2	2.9*1	STPT370

注記 \*1: 公称値を示す。

\*2: 重大事故等時における使用時の値を示す。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後
名 称			—	緊急時対策所用発電機（東海，東海第二発電所共用）
種 類	—			防滴保護，空気冷却自己自由通風型三相交流発電機
容 量	kVA/個			1725
主要寸法	た て	mm		1965*
	横	mm		1090*
	高 さ	mm		1000*
力 率	%			80（遅れ）
電 圧	V			6600
相	—			3
周 波 数	Hz			50
回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500
結 線 法	—			星形
冷 却 方 法	—			空気冷却
個 数	—			2

(続き)

			変更前	変 更 後	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	—	緊急時対策所用発電機 2A	緊急時対策所用発電機 2B
	設 置 床	—		緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m	緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m
	溢水防護上の 区 画 番 号	—		EM-1-7	EM-1-9
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		EL. 23.30 m 以上	EL. 23.30 m 以上

注記 \* : 公称値を示す。

ロ 励磁装置の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変 更 後		
名 称			—	緊急時対策所用発電機励磁装置（東海，東海第二発電所共用）		
種 類	—			ブラシレス方式（PMG 付）		
容 量	VA/個			9650		
個 数	—			2（発電機 1 個当たり 1）		
取 付 箇 所	系 統 名 （ ラ イ ン 名 ）	—		緊急時対策所用発電機励磁装置 2A	緊急時対策所用発電機励磁装置 2B	
	設 置 床	—		緊急時対策所用発電機 2A	緊急時対策所用発電機 2B	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m	緊急時対策所建屋 EL. 23. 30 m	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EM-1-7	EM-1-9	
			EL. 23. 30 m 以上	EL. 23. 30 m 以上		

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後
名 称		—	緊急時対策所用発電機保護継電装置 (東海, 東海第二発電所共用)
種 類	—		不足電圧継電器 過電圧継電器 過電流継電器



ニ 原動機との連結方法

		変更前	変更後
連 結 方 法	—	—	直結

2.5 可搬型代替低圧電源車

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

				変更前	変更後	
名 称				—	可搬型代替低圧電源車 内燃機関*1	
機 関	種 類	—			4 サイクル水冷直列直接噴射式 6 気筒ディーゼル機関	
	出 力	kW/個			473	
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500	
	燃 料	種 類	—		軽油	
		使 用 量	L/h/個		111	
	個 数	—			1*2	
	取 付 箇 所	—			可搬型代替低圧電源車	
過 給 機	種 類	—			排気タービン式	
	出 口 の 圧 力	kPa			<input type="text"/>	
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			<input type="text"/>	
	個 数	—			1*2	
	取 付 箇 所	—			機関と同じ	

注記 \*1：可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

\*2：可搬型代替低圧電源車 1 個当たりの個数を示す。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後	
名 称		—	可搬型代替低圧電源車 調速装置*	可搬型代替低圧電源車 非常調速装置*
種 類	—		電気式	電気式

注記 \* : 可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変 更 後
名 称			—	可搬型代替低圧電源車 冷却水ポンプ*1
種 類	—	遠心式		
容 量	L/min/個	<input type="text"/>		
個 数	—	1*2		
取 付 箇 所	—	可搬型代替低圧電源車		

注記 \*1：可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

\*2：可搬型代替低圧電源車 1 個当たりの個数を示す。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変更後
名 称			—	可搬型代替低圧電源車 燃料タンク*1
種 類	—	角形		
容 量	L/個	245 以上 (250*2)		
最 高 使 用 圧 力 *4	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度 *4	℃	40		
主 要 寸 法	た て	mm		532.4*2
	横	mm		1250*2
	高 さ	mm		402.4*2
材 料	—	SECC		
個 数	—	1*3		
取 付 箇 所	—	可搬型代替低圧電源車		

注記 \*1：可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

\*2：公称値を示す。

\*3：可搬型代替低圧電源車 1 個当たりの個数を示す。

\*4：重大事故等時における使用時の値を示す。

(4) 燃料設備に係る次の事項

- ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，補機駆動用燃料設備のうち燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（可搬型代替低圧電源車）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

- ・常設

- 可搬型設備用軽油タンク

- ・可搬型

- タンクローリ

ニ 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

以下の設備は，補機駆動用燃料設備のうち燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（可搬型代替低圧電源車）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・可搬型

タンクローリ給油用 10m ホース

タンクローリ送油用 19.5m ホース

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称，種類，容量，主要寸法，力率，電圧，相，周波数，回転速度，結線法，冷却方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変更後
名 称				可搬型代替低圧電源車
種 類	—			保護自由通風形同期発電機
容 量	kVA/個			500
主 要 寸 法	た て	mm		1355*
	横	mm		750*
	高 さ	mm		730*
	車 両 全 長	mm		6885*
	車 両 全 幅	mm		2200*
	車 両 全 高	mm		3040*
力 率	%			80（遅れ）
電 圧	V			440
相	—			3
周 波 数	Hz			50
回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500
結 線 法	—			星形
冷 却 方 法	—			空気冷却
個 数	—			4（予備 1）



(続き)

		変更前	変 更 後
取 付 箇 所	—	—	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (西側) EL. 約 23 m   2 個保管 ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 (南側) EL. 約 25 m   2 個保管 ・可搬型重大事故等対処設備予備機置場 EL. 約 8 m    1 個保管  取付箇所： 2 個 常設代替高圧電源装置用カルバート (立坑部) 可搬型代替低圧電源車接続盤 (西側) EL. 2.70 m 又は 原子炉建屋付属棟 可搬型代替低圧電源車接続盤 (東側) EL. 8.20 m

注記 \* : 公称値を示す。

ロ 励磁装置の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変 更 後
名 称			-	可搬型代替低圧電源車励磁装置*1
種 類	-			ブラシレス方式
容 量	kVA/個			15
個 数	-			1*2
取 付 箇 所	-			可搬型代替低圧電源車

注記 \*1：可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

\*2：可搬型代替低圧電源車 1 個当たりの個数を示す。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変 更 後
名 称			可搬型代替低圧電源車保護継電装置*
種 類	—	—	不足電圧継電器 過電圧継電器 過電流継電器 地絡過電圧継電器 逆電力継電器

注記 \* : 可搬型代替低圧電源車の附属機器である。

ニ 原動機との連結方法

		変更前	変更後
連 結 方 法	—	—	直結

2.6 窒素供給装置用電源車

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

				変更前	変更後	
名 称				—	窒素供給装置用電源車 内燃機関*1	
機 関	種 類	—			4 サイクル水冷直列直接噴射式 6 気筒ディーゼル機関	
	出 力	kW/個			473	
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500	
	燃 料	種 類	—		軽油	
		使 用 量	L/h/個		111	
	個 数	—			1*2	
	取 付 箇 所	—			窒素供給装置用電源車	
過 給 機	種 類	—			排気タービン式	
	出 口 の 圧 力	kPa			□	
	回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			□	
	個 数	—			1*2	
	取 付 箇 所	—			機関と同じ	

注記 \*1：窒素供給装置用電源車の附属機器である。

\*2：窒素供給装置用電源車 1 個当たりの個数を示す。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変更前	変更後	
名 称		—	窒素供給装置用 電源車調速装置*	窒素供給装置用 電源車非常調速装置*
種 類	—		電気式	電気式

注記 \* : 窒素供給装置用電源車の附属機器である。

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変 更 後
名 称			—	窒素供給装置用電源車 冷却水ポンプ*1
種 類	—	遠心式		
容 量	L/min/個	<input type="text"/>		
個 数	—	1*2		
取 付 箇 所	—	窒素供給装置用電源車		

注記 \*1：窒素供給装置用電源車の附属機器である。

\*2：窒素供給装置用電源車 1 個当たりの個数を示す。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変更後
名 称			—	窒素供給装置用電源車 燃料タンク*1
種 類	—	角形		
容 量	L/個	245 以上 (250*2)		
最 高 使 用 圧 力 *4	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度 *4	℃	40		
主 要 寸 法	た て	mm		532.4*2
	横	mm		1250*2
	高 さ	mm		402.4*2
材 料	—	SECC		
個 数	—	1*3		
取 付 箇 所	—	窒素供給装置用電源車		

注記 \*1：窒素供給装置用電源車の附属機器である。

\*2：公称値を示す。

\*3：窒素供給装置用電源車1個当たりの個数を示す。

\*4：重大事故等時における使用時の値を示す。



(4) 燃料設備に係る次の事項

- ロ 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

以下の設備は，補機駆動用燃料設備のうち燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（窒素供給装置用電源車）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

- ・常設

- 可搬型設備用軽油タンク

- ・可搬型

- タンクローリ

ニ 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

以下の設備は，補機駆動用燃料設備のうち燃料設備であり，非常用電源設備のうち非常用発電装置（窒素供給装置用電源車）の燃料設備として本工事計画で兼用とする。

・可搬型

タンクローリ給油用 10m ホース

タンクローリ送油用 19.5m ホース

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称，種類，容量，主要寸法，力率，電圧，相，周波数，回転速度，結線法，冷却方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変更後
名 称				窒素供給装置用電源車
種 類	—			保護自由通風形同期発電機
容 量	kVA/個			500
主 要 寸 法	た て	mm		1355*
	横	mm		750*
	高 さ	mm		730*
	車 両 全 長	mm		6885*
	車 両 全 幅	mm		2200*
	車 両 全 高	mm		3040*
力 率	%			80（遅れ）
電 圧	V			440
相	—			3
周 波 数	Hz			50
回 転 速 度	min <sup>-1</sup>			1500
結 線 法	—			星形
冷 却 方 法	—			空気冷却
個 数	—			1（予備 1）

(続き)

		変更前	変更後
取付箇所	—	—	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 （西側） EL. 約 23 m 1 個保管 ・可搬型重大事故等対処設備保管場所 （南側） EL. 約 25 m 1 個保管  取付箇所： （ 1 個 原子炉建屋西側屋外 窒素供給装置 EL. 約 8 m 又は 原子炉建屋東側屋外 窒素供給装置 EL. 約 8 m ）

注記 \* : 公称値を示す。

ロ 励磁装置の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・可搬型

			変更前	変 更 後
名 称			-	窒素供給装置用電源車励磁装置*1
種 類	-			ブラシレス方式
容 量	kVA/個			15
個 数	-			1*2
取 付 箇 所	-			窒素供給装置用電源車

注記 \*1：窒素供給装置用電源車の附属機器である。

\*2：窒素供給装置用電源車 1 個当たりの個数を示す。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

		変更前	変更後
名 称			窒素供給装置用電源車保護継電装置*
種 類	—	—	不足電圧継電器 過電圧継電器 過電流継電器 地絡過電圧継電器 逆電力継電器

注記 \* : 窒素供給装置用電源車の附属機器である。

ニ 原動機との連結方法

		変更前	変更後
連 結 方 法	—	—	直結

3 その他の電源装置（非常用のものに限る。）に係る次の事項

3.1 その他の電源装置

(1) 無停電電源装置の名称，種類，容量，電圧，周波数，主要寸法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

				変更前	変 更 後	
名 称				-	非常用無停電電源装置	
種 類	—				静止形定電圧定周波数電源装置	
容 量	kVA/個				35	
電 圧	入 力	V			交流 440	
	出 力	V			直流 125	
周 波 数	入 力	Hz			交流 120	
	出 力	Hz			50 及び直流	
主 要 寸 法	た て	mm			50	
	横	mm			1300*	
	高 さ	mm			3200*	
個 数	—				2300*	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—			非常用無停電電源装置 A	非常用無停電電源装置 B
	設 置 床	—			原子炉建屋付属棟 EL. 8. 20 m	原子炉建屋付属棟 EL. 8. 20 m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			CS-1-3	CS-1-3
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			EL. 8. 20 m 以上	EL. 8. 20 m 以上

注記 \*：公称値を示す。



			変更前	変 更 後
名 称				緊急用無停電電源装置
種	類	—		静止形定電圧定周波数電源装置
容	量	kVA/個		35
電 圧	入 力	V	—	交流 440
	出 力	V		直流 125
周波数	入 力	Hz		交流 120
	出 力	Hz		50 及び直流
主要寸法	た て	mm		50
	横	mm		1300*
	高 さ	mm		3200*
個	数	—		2300*
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		1
	設 置 床	—		緊急用無停電電源装置
	溢水防護上の 区画番号	—		原子炉建屋付属棟 EL. 8.20 m
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		RW-1-3
				EL. 8.20 m 以上

注記 \* : 公称値を示す。

・可搬型

			変 更 前	変 更 後
名 称				可搬型整流器
種 類		—		交流/直流変換器
容 量		A/個		100
電 圧		V		0~150* <sup>1</sup>
周 波 数		Hz		45~65* <sup>2</sup>
主 要 寸 法	た て	mm		690* <sup>3</sup>
	横	mm		430* <sup>3</sup>
	高 さ	mm		199* <sup>3</sup>
個 数		—		8 (予備 1)
取 付 箇 所		—	—	保管場所： ・可搬型重大事故等対処設備保管場所（西側） EL. 約 23 m 5 個保管 ・可搬型重大事故等対処設備保管場所（南側） EL. 約 25 m 4 個保管  取付箇所： 4 個 常設代替高圧電源装置用カルバート （立坑部） 可搬型代替低圧電源車接続盤（西側） EL. 2.70 m 又は 原子炉建屋付属棟 可搬型代替低圧電源車接続盤（東側） EL. 8.20 m



















注記 \*1：出力値を示す。

\*2：入力値を示す。

\*3：公称値を示す。

(2) 電力貯蔵装置の名称、種類、容量、電圧、主要寸法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前	変更後*5
名称		125V系蓄電池	変更なし
種類	—	制御弁式据置鉛蓄電池	変更なし
容量	Ah/組	A系 2000 (10時間率) B系 2000 (10時間率) HPCS系 500 (10時間率)	A系 6000 (10時間率) B系 6000 (10時間率) HPCS系 変更なし
電圧	V	125*1	変更なし
主要寸法	たて	mm A系  *2 B系  *2 HPCS系  *2	A系  *2 B系  *2 HPCS系 変更なし
	横	mm A系  *2, *3  *2, *3 B系  *2, *3  *2, *3 HPCS系  *2, *3  *2, *3	A系  *2, *3  *2, *3 B系  *2, *3  *2, *3 HPCS系 変更なし
	高さ	mm A系  *2 B系  *2 HPCS系  *2	変更なし
個数	組	3 (A系 1組当たり 58個 B系 1組当たり 58個 HPCS系 1組当たり 58個)	3 (A系 1組当たり 120個 B系 1組当たり 120個 HPCS系 変更なし)

(続き)

		変 更 前			変 更 後*5			
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	125V 系 蓄電池 A 系*4	125V 系 蓄電池 B 系*4	125V 系 蓄電池 HPCS 系*4	変更なし		
	設 置 床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 8.20 m*4	原子炉建屋 付属棟 EL. 8.20 m*4	原子炉建屋 付属棟 EL. 10.50 m*4	原子炉建屋 付属棟 EL. 10.50 m	変更なし	変更なし
	溢水防護上の 区 画 番 号	—	—			CS-1-1	CS-1-7 CS-1-8	CS-1-2
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ	—	—			EL. 10.50 m 以上	EL. 8.20 m 以上	EL. 10.50 m 以上

注記 \*1：通常運転時，充電器にて浮動充電電圧を 133.8 V±1.5 % (A 系, B 系) , 129.5 V±1.5 % (HPCS 系) に維持する。

\*2：公称値を示す。

\*3： ( ) 内は架台数を示す。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

\*5：125V 系蓄電池 A 系, 125V 系蓄電池 B 系については取替えを実施する。

			変更前	変更後
名称			中性子モニタ用蓄電池	変更なし
種類	類	—	制御弁式据置鉛蓄電池	
容量		Ah/組	A系 150 (10時間率) B系 150 (10時間率)	
電圧		V	±24* <sup>1</sup>	
主要寸法	たて	mm	A系 <input type="text"/> * <sup>2</sup> B系 <input type="text"/> * <sup>2</sup>	
	横	mm	A系 <input type="text"/> * <sup>2</sup> B系 <input type="text"/> * <sup>2</sup>	
	高さ	mm	A系 <input type="text"/> * <sup>2</sup> B系 <input type="text"/> * <sup>2</sup>	
個数		組	2 (1組当たり 24個)	


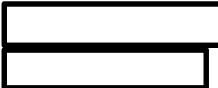

(続き)

		変 更 前		変 更 後		
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	中性子モニタ用 蓄電池 A 系 <sup>*3</sup>	中性子モニタ用 蓄電池 B 系 <sup>*3</sup>	変更なし	
	設 置 床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 8.20 m <sup>*3</sup>	原子炉建屋 付属棟 EL. 8.20 m <sup>*3</sup>		
	溢水防護上の 区 画 番 号	—	—		CS-1-6	CS-1-8
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ	—	—		EL. 8.22 m 以上	EL. 8.20 m 以上

注記 \*1：通常運転時，充電器にて浮動充電電圧を±26.8 V±2 %に維持する。

\*2：公称値を示す。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称				緊急用 125V 系蓄電池
種 類	—			制御弁式据置鉛蓄電池
容 量	Ah/組			6000 (10 時間率)
電 圧	V			125*1
主 要 寸 法	た て	mm		 *2
	横	mm		 *2, *3 *2, *3
	高 さ	mm		 *2
個 数			—	1 (1 組当たり 120 個)
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—		緊急用 125V 系蓄電池
	設 置 床	—		原子炉建屋付属棟 EL. 8.20 m / EL. 10.50 m
	溢水防護上の 区 画 番 号	—		RW-1-7
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ	—		EL. 8.20 m 以上

注記 \*1：通常運転時，充電器にて浮動充電電圧を 133.8 V±2 %に維持する。

\*2：公称値を示す。

\*3：（ ）内は架台数を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称				緊急時対策所用 125V 系蓄電池 (東海, 東海第二発電所共用)
種 類		—		制御弁式据置鉛蓄電池
容 量		Ah/組		1000 (10 時間率)
電 圧		V		125* <sup>1</sup>
主 要 寸 法	た て	mm		□
	横	mm		□
	高 さ	mm		□
個 数		組	—	1 (1 組当たり 60 個)
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)		—	緊急時対策所用 125V 系蓄電池
	設 置 床		—	緊急時対策所建屋 EL. 37.00 m
	溢水防護上の 区 画 番 号		—	EM-3-5
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ		—	EL. 37.00 m 以上

注記 \*1: 通常運転時, 充電器にて浮動充電電圧を 133.8 V±2 %に維持する。

\*2: 公称値を示す。

\*3: ( ) 内は架台数を示す。



・可搬型

			変 更 前	変 更 後	
名 称				逃がし安全弁用可搬型蓄電池	
種 類	—			リチウムイオン電池	
容 量	Wh/個			780	
電 圧	V			125	
主 要 寸 法	た て	mm	—	690*	
	横	mm		320*	
	高 さ	mm		595*	
個 数	—			2 (予備 1)	
取 付 箇 所				—	
				保管場所： 原子炉建屋付属棟 EL. 18.00 m  取付箇所： 2 個 原子炉建屋付属棟 自動減圧系 (A, B) 継電器盤 EL. 18.00 m	

注記 \* : 公称値を示す。

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (1/11)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後							
			名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1			
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		
常用電源設備との切替方法	非常用ディーゼル発電装置	-	非常用ディーゼル発電機 (常用電源設備との切替方法)	-	-	-	変更なし*2	-	-	-	-			
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置		高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 (常用電源設備との切替方法)	-	-	-	変更なし*2	-	-	-	-			
	常設代替高圧電源装置		-					常設代替高圧電源装置 (常用電源設備との切替方法)*3	-	-	-	-		
	緊急時対策所用発電機		-					緊急時対策所用発電機 (常用電源設備との切替方法)*3	-	-	-	-		
	可搬型代替低圧電源車		-					可搬型代替低圧電源車 (常用電源設備との切替方法)*3	-	-	-	-		
	窒素供給装置用電源車		-					窒素供給装置用電源車 (常用電源設備との切替方法)*3	-	-	-	-		
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	内燃機関	機関並びに過給機	非常用ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		火力技術基準			
			調速装置及び非常調速装置	非常用ディーゼル発電機調速装置	S	-	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		-			
				非常用ディーゼル発電機非常調速装置	S	-	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		-			
			内燃機関に附属する冷却水設備	非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ	S	火力技術基準	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		火力技術基準			
			内燃機関に附属する空気圧縮設備 (空気だめ)	非常用ディーゼル発電機空気だめA	S	クラス3	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		SAクラス2			
				非常用ディーゼル発電機空気だめB*4	C	クラス3	-	変更なし						
			内燃機関に附属する空気圧縮設備 (空気だめの安全弁)	3-14Z1	S	-	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		-			
				3-14Z2*4	C	-	-	変更なし						
				3-14Z101	S	-	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		-			
				3-14Z102*4	C	-	-	変更なし						
			燃料デイトンク又はサービスタンク	非常用ディーゼル発電機燃料油デイトンク	S	火力技術基準	-	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和		火力技術基準			
			燃料設備	ポンプ	-					非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				容器	-					軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (2/11)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後							
			名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1			
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	燃料設備	主配管	—	—	—	—	軽油貯蔵タンク ～ 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
				—	—	—	—	非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機燃料油デイトンク	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
				—	—	—	—	非常用ディーゼル発電機燃料油デイトンク ～ 燃料油フィルタ	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
				—	—	—	—	燃料油フィルタ ～ 非常用ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
		発電機	発電機	非常用ディーゼル発電機	S	—	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	
			励磁装置	非常用ディーゼル発電機励磁装置	S	—	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	
			保護継電装置	非常用ディーゼル発電機保護継電装置	S	—	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	
			原動機との連結方法	非常用ディーゼル発電機(原動機との連結方法)	—	—	—	—	変更なし*2	—	—	—	—	
		冷却設備	ポンプ	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	Non*6	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			ろ過装置	非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			主配管	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2
				非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 非常用ディーゼル発電機清水冷却器	S	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (3/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	冷却設備	主配管	非常用ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	S	Non	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2
				空気冷却器分岐点 ～ 燃料弁冷却器 ～ 空気冷却器合流点	S	クラス3 Non	—	—	—*5	—		
				放出配管分岐点 ～ 弁7-13V91, 弁7-13V89	S	Non	—	—	変更なし	—		
				弁7-13V91, 弁7-13V89 ～ 放水路*4	C	Non	—	—	変更なし	—		
				放出配管分岐点 ～ 放水先	S	Non	—	—	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
				機関並びに過給機	S	火力技術基準	—	—	変更なし	常設耐震/防止	火力技術基準	
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	内燃機関	調速装置及び非常調速装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機調速装置	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—	
				高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機非常調速装置	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—	
			内燃機関に附属する冷却水設備	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機冷却水ポンプ	S	火力技術基準	—	—	変更なし	常設耐震/防止	火力技術基準	
				内燃機関に附属する空気圧縮設備 (空気だめ)	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめA	S	クラス3	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめB*4		C	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
			内燃機関に附属する空気圧縮設備 (空気だめの安全弁)	3-14Z201	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—	
				3-14Z202*4	C	—	—	—	変更なし	—	—	
			燃料デイトンク又はサービスタンク	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイトンク	S	火力技術基準	—	—	変更なし	常設耐震/防止	火力技術基準	

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (4/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
非常用発電装置	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電装置	燃料設備	ポンプ	-				高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
			容器	-				軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
			主配管	-				軽油貯蔵タンク ～ 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
				-				高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ ～ 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機燃料油デイトンク	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
				-				高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機燃料油デイトンク ～ 燃料油フィルタ	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
				-				燃料油フィルタ ～ 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	常設耐震/防止	火力技術基準
		発電機	発電機	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機	S	-	-	変更なし		常設耐震/防止	-	
			励磁装置	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機励磁装置	S	-	-	変更なし		常設耐震/防止	-	
			保護継電装置	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機保護継電装置	S	-	-	変更なし		常設耐震/防止	-	
			原動機との連結方法	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機（原動機との連結方法）	-	-	-	変更なし*2		-	-	

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (5/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	名称	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
非常用発電装置	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電装置	冷却設備	ポンプ	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	Non*6	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			ろ過装置	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			主配管	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ポンプ ～ 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止	SAクラス2
				高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機清水冷却器	S	クラス3	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止	SAクラス2
				高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機清水冷却器 ～ 放出配管分岐点	S	Non	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止	SAクラス2
				空気冷却器分岐点 ～ 燃料弁冷却器 ～ 空気冷却器合流点	S	クラス3 Non	—	—	—	*5	—	—
				補機冷却器分岐点 ～ 高圧炉心スプレィ系ポンプ室空調機、高圧炉心スプレィ系ポンプポンプモータ軸受冷却器及びメカニカルシール冷却器 ～ 補機冷却器合流点	S	クラス3 Non	—	—	—	*5	—	—

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (6/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
非常用発電装置	ディーゼル発電装置 高圧炉心スプレイ系	冷却設備	放出配管分岐点 ～ 弁7-13V90	S	Non	—	—	変更なし				
			弁7-13V90 ～ 放水路*4	C	Non	—	—	変更なし				
			放出配管分岐点 ～ 放水先	S	Non	—	—	変更なし		常設耐震/防止	SAクラス2	
	常設代替高圧電源装置	内燃機関	機関並びに過給機	—	—	—	—	常設代替高圧電源装置内燃機関	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			調速装置及び非常 調速装置	—	—	—	—	常設代替高圧電源装置調速装置	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—
				—	—	—	—	常設代替高圧電源装置非常調速 装置	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—
			内燃機関に附属す る冷却水設備	—	—	—	—	常設代替高圧電源装置冷却水ポ ンプ	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			燃料デイタンク又 はサービスタンク	—	—	—	—	常設代替高圧電源装置燃料油サ ービスタンク	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
		燃料設備	ポンプ	—	—	—	—	常設代替高圧電源装置燃料移送 ポンプ	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			容器	—	—	—	—	軽油貯蔵タンク	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			主配管	—	—	—	—	軽油貯蔵タンクA ～ 常設代替高圧電源装置燃料移送 ポンプA	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				—	—	—	—	常設代替高圧電源装置燃料移送 ポンプA ～ 常設代替高圧電源装置燃料油サ ービスタンク	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				—	—	—	—	軽油貯蔵タンクB ～ 常設代替高圧電源装置燃料移送 ポンプB	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (7/11)

設備区分	系統名	機器区分		変更前				変更後					
				名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1	
					耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
非常用発電装置	常設代替高圧電源装置	燃料設備	主配管		—		常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプB ～ 常設代替高圧電源装置燃料移送ポンプB出口配管合流点	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
			発電機	発電機		—		常設代替高圧電源装置	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	
		励磁装置			—		常設代替高圧電源装置励磁装置	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—		
		保護継電装置			—		常設代替高圧電源装置保護継電装置	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—		
		原動機との連結方法		—		常設代替高圧電源装置（原動機との連結方法）*3	—	—	—	—			
	緊急時対策所用発電機	内燃機関	機関並びに過給機		—		緊急時対策所用発電機内燃機関（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
			調速装置及び非常調速装置		—		緊急時対策所用発電機調速装置（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	—		
					—		緊急時対策所用発電機非常調速装置（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	—		
			内燃機関に附属する冷却水設備		—		緊急時対策所用発電機冷却水ポンプ（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
			燃料デイトンク又はサービスタンク		—		緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
		燃料設備	ポンプ		—		緊急時対策所用発電機給油ポンプ（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
			容器		—		緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
			主配管		—		緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク2A ～ 緊急時対策所用発電機給油ポンプ2A（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設/防止 常設/緩和	火力技術基準		
					—								



表1 非常用電源設備の主要設備リスト (8/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
非常用発電装置	緊急時対策所用発電機	燃料設備 主配管						緊急時対策所用発電機給油ポンプ2A ～ 緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2A（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	火力技術基準
								緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2A ～ 緊急時対策所用発電機内燃機関2A（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	火力技術基準
								緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク2B ～ 緊急時対策所用発電機給油ポンプ2B（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	火力技術基準
								緊急時対策所用発電機給油ポンプ2B ～ 緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2B（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	火力技術基準
								緊急時対策所用発電機燃料油サービスタンク2B ～ 緊急時対策所用発電機内燃機関2B（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	火力技術基準
		発電機					緊急時対策所用発電機（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	—	
		励磁装置					緊急時対策所用発電機励磁装置（東海，東海第二発電所共用）	—	—	常設／防止 常設／緩和	—	

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (9/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
非常用発電装置	緊急時対策所用発電機	発電機	保護継電装置	-		-		緊急時対策所用発電機保護継電装置 (東海, 東海第二発電所共用)	-	-	常設/防止 常設/緩和	-
			原動機との連結方法	-		-		緊急時対策所用発電機 (原動機との連結方法) *3	-	-	-	-
非常用発電装置	可搬型代替低圧電源車	内燃機関	機関並びに過給機	-		-		可搬型代替低圧電源車内燃機関	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
			調速装置及び非常調速装置	-		-		可搬型代替低圧電源車調速装置	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-
				-		-		可搬型代替低圧電源車非常調速装置	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-
			内燃機関に附属する冷却水設備	-		-		可搬型代替低圧電源車冷却水ポンプ	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
		燃料デイトンク又はサービスタンク	-		-		可搬型代替低圧電源車燃料タンク	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3	
		燃料設備	容器	-		-		可搬型設備用軽油タンク	-	-	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				-		-		タンクローリ	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
			主配管	-		-		タンクローリ給油用10mホース	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
				-		-		タンクローリ送油用19.5mホース	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
		発電機	発電機	-		-		可搬型代替低圧電源車	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-
			励磁装置	-		-		可搬型代替低圧電源車励磁装置	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-
			保護継電装置	-		-		可搬型代替低圧電源車保護継電装置	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-
			原動機との連結方法	-		-		可搬型代替低圧電源車 (原動機との連結方法) *3	-	-	-	-

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (10/11)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後				
				設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
非常用発電装置	窒素供給装置用電源車	内燃機関	機関並びに過給機	-				窒素供給装置用電源車内燃機関	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
			調速装置及び非常調速装置	-				窒素供給装置用電源車調速装置	-		可搬/防止 可搬/緩和	-
				-				窒素供給装置用電源車非常調速装置	-		可搬/防止 可搬/緩和	-
			内燃機関に附属する冷却水設備	-				窒素供給装置用電源車冷却水ポンプ	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
		燃料デイトンク又はサービスタンク	-				窒素供給装置用電源車燃料タンク	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3	
		燃料設備	容器	-				可搬型設備用軽油タンク	-		常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				-				タンクローリ	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
			主配管	-				タンクローリ給油用10mホース	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
				-				タンクローリ送油用19.5mホース	-		可搬/防止 可搬/緩和	SAクラス3
		発電機	発電機	-				窒素供給装置用電源車	-		可搬/防止 可搬/緩和	-
			励磁装置	-				窒素供給装置用電源車励磁装置	-		可搬/防止 可搬/緩和	-
			保護継電装置	-				窒素供給装置用電源車保護継電装置	-		可搬/防止 可搬/緩和	-
			原動機との連結方法	-				窒素供給装置用電源車（原動機との連結方法）*3	-		-	-

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (11/11)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1		名称	設計基準対象施設*1		重大事故等対処設備*1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
その他の電源装置	-	無停電電源装置	-				非常用無停電電源装置	S	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-	
			-				緊急用無停電電源装置	-	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-	
			-				可搬型整流器	-	-	可搬/防止 可搬/緩和	-	
		電力貯蔵装置	125V系蓄電池	S	-	-	変更なし				常設耐震/防止 常設/緩和	-
			中性子モニタ用蓄電池	S	-	-	変更なし				常設耐震/防止	-
			-				緊急用125V系蓄電池	-	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-	
			-				緊急時対策所用125V系蓄電池 (東海, 東海第二発電所共用)	-	-	常設/防止 常設/緩和	-	
			-				逃がし安全弁用可搬型蓄電池	-	-	可搬/防止	-	

注記 \*1: 表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針, 適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

\*2: 設計基準対象施設及び重大事故等対処設備として使用する。

\*3: 重大事故等対処設備として使用する。

\*4: 本設備は記載の適正化のみ行うものであり, 手続き対象外である。

\*5: 当該配管については, 主配管に該当しないため, 記載の適正化を行う。

\*6: 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年度 (2007年追補版含む)) <第I編 軽水炉規格> J SME S NC 1-2005/2007」 (日本機械学会) における「クラス3ポンプ」である。